

福島第一原子力発電所現地確認報告書

- 1 確認日
令和6年11月8日（金）
- 2 確認箇所
2号機原子炉建屋大物搬入口（図1）
- 3 確認項目
2号機燃料デブリ試験的取り出し作業の状況

4 確認結果の概要

2号機においてテレスコピック式試験的取り出し装置（以下「テレスコ装置」という。）による燃料デブリ^{※1}試験的取り出し作業が8月22日から実施されており、9月9日にテレスコ装置先端部が原子炉格納容器（以下「PCV」という。）隔離弁を通過、作業着手となった。

その後、テレスコ装置先端カメラの不具合等により、作業が一時中断されたが、10月28日に取り出し作業が再開され、燃料デブリ把持・吊り上げに成功した。

11月5日には採取した燃料デブリの表面線量測定が行われ、取り扱える線量（20cmの離隔にて24mSv/h以下）であることが確認された。

11月7日には燃料デブリをエンクロージャ^{※2}から取り出し、建屋内運搬容器へ収納後、グローブボックス^{※3}への搬入が行われた。

本日は、グローブボックスに搬入された燃料デブリの重量等の測定後、構外輸送容器へ収納し、構内一時保管施設までの輸送作業が行われることから、その状況を確認した。（前回確認：[令和6年11月7日](#)）

【確認結果概要】

- ・10時30分頃に作業員が到着し、グローブボックス内で燃料デブリの測定作業が開始された。
- ・11時30分頃に別班の作業員が到着し、大物搬入口の扉を開ける作業が開始された。
- ・11時50分頃に構外輸送容器を積載したトラックが到着し、燃料デブリを構外輸送容器に収納する作業が開始された。
- ・構外輸送容器の線量測定等が行われた後、13時15分頃に燃料デブリを積載したトラックが構内一時保管施設に向けて移動を開始した。
- ・作業は指揮者からの指示の下、適切に実施されていた。

※1 燃料デブリ

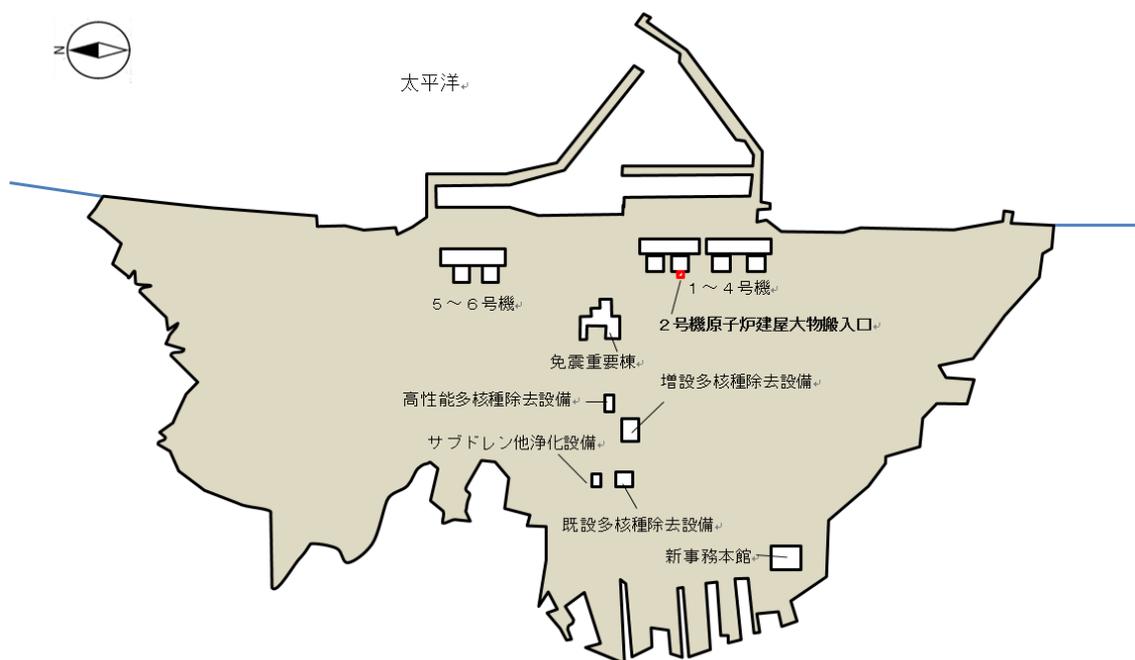
過熱した燃料が燃料被覆管や炉内構造物等とともに熔融し、その熔融物が冷えて固まったもの。

※2 エンクロージャ

テレスコ装置を格納する金属製の管体

※3 グローブボックス

放射性物質や毒性のある物質を隔離した状態のまま、目視しながら取り扱えるように窓や手袋を取り付けた機密性がある箱形の装置。



(図1) 福島第一原子力発電所構内概略図

5 プラント関連パラメータ確認

各パラメータに異常な値は確認されなかった。